事業番号

0160

平成24						年行政	事第	<b>美レビューシ</b>	<u>/                                    </u>	<u> </u>	(	P	内閣府)	
_	業名	科学の役割についての普及・啓発				担当部	局庁	<b>司庁</b> 日本学術会議事務局			作	作成責任者		
事業 終了(予	開始・ ・定)年度	事業開始:昭和61年度			担当計	東室	1	企画課長    清水誠			青水誠			
会計区分			一般会計			施策	名	8 2	科学	の役割にて	ついての記	<b>普及・</b>	啓発	
根拠法令 (具体的な 条項も記載)		日本学術会議法				関係する計画、 通知等								
事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)		選出され 高めるこ	た会員210名	と連携会	€員約2,00	00名	で構成)と	して、	に対する代表機 学術フォーラム: 生活に科学を反り	を通じ	、科学の行	役割につ		
(5行	<b>養概要</b> 行程度以 削添可)		学術会議会員 なを開催する		寅、パネノ	レディ	ィスカッショ	シ等	を行うことを通じ	、学術	の成果を	国民に遗	記元す	るため、学術
実施	植方法	■直接実	施口氢	長託・請負	. □	補助	) 🗆	負担	口交付		]貸付	□その		
				213	年度		22年度		23年度		24年月	<b></b>	2	5年度要求
		予	当初予算		5		3		3		3			3
		算   補正予算			_	-			-		-			
	範額・ 行額	が	状   繰越し等		5		3		-		3			
(単位	:百万円)	沿計							3					
		執行額			5		3		2					
		執行率(%)		8	84%		123%		73%					
ct 用 F	目標及び	成果指標					単位	21年度	2	2年度	23年	度	目標値 (24年度)	
成男	また。 限実績 ・トカム)	学術フォーラムの参加者アンケートで肯定的に 評価した者の割合(平均値)				成果実績達成度	% %	_ _		_	_		80	
		活動指標						単位	21年度	2	2年度	23年	度	24年度活動見込
	旨標及び 助実績	日本学術会議主催学術フォーラム開催回数				活動実績		_		4	10			
	トプット)					(当初見込	□	5		4	10		_	
							み)		(5)		(4)	(10	)	(10)
単位当たりコスト		69千円(円/回)				算出根拠 689千円÷10回								
平 成 2 4	費目		24年度当初予算 25年度要求				Ė	な増	減理由					
	会員手当		0											
	諸謝金		0											
2	職員旅費		0											
5年度予算内	委員等旅費		1											
	庁費		0											
算内	国会図書館支部庁費		費 2											
訳		計	3			_								

日本学術会議は、東日本大震災からの場合というから、世界となっているか。			事業所管部局による点検								
が いるロエリー・ハかの、変元はから、地方自治体、民間等に委ねるべき事業として、いるした、自身を持て、として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、いる自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。といて、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。として、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。自然を表す。と、自然を表す。と、自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然を表す。自然		評価	項目								
数・	目的	0	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関 として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び国民生活に科							
② 大田本の選定は妥当か、競争性が確保されているか。 ② 世位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。 ② 単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。 ② 異な者との負担関係は妥当であるか。 ③ 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 ② 機の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。 ② 適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。 ③ 適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。 ③ 活動実績は、現込みに見合ったものであるか。 ② 活動実績は、現込みに見合ったものであるか。 ② 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 ② 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 ② 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 ② 活動実績は、現立の事まがあるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割が担合。 ② 大田本の事まがあるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割が担合。 ② 大田本の事まがあるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割が担合。 ② 大田本の事まがあるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割が担合。 ② 大田本の事まがあるか。その場合、他部局・市省名 ② 大田本の事まがあるか。その場合、他部局・市省等と適切な役割が担合。 ② を構造された施設や成果物は十分に活用されているか。 ② を構造された施設や成果物は十分に活用されているか。 ② を構造された施設や成果物は十分に活用されているか。 ② といった、大田本の事に対して科学かより効果の後別・済むとしていると対しておいまして、大田本の事に対して科学がより効果のなど認性をようととはより、社会に対して科学がより効果のな別を表す、そうした目的を踏まえ、科学成果を国民に選示し、併せて国民から意見をとしてより、社会に対して科学かより効果のは関係を表えを関係し、対ける科学と社会の新しい関係」、「全由科学の進展と作るよう、学術ファームを模様的に関係と、「全由科学の進度と作るよう、学術ファームを模様的に関係と、「全由科学の進度に伴う新たなリスクと科学者の役割においては、科学・技術の事ま対するリスクについてンパングとでいまかえる。 第 初にのまりまえ方を開始・活造させるよう。とは、国民の関心の高い事項について学所会議の表はおいては、科学・技術の事まのは、別ないに対していまからの表と考える。後は、国民の関心の高い事項について学所会議の記念はに対しているとので表と考える。後は、国民の関心の高い事項について学所を達成の果とを主め、別でを持つかり開始に関すると対さがない。 ③ 自然を事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に関係が上の正のの原のの意い事項に対しているとかいような方向のかり助けがなされるよう。配慮していまれているの所見・第 別を検索集の適切な進捗管理、予算の効率を対して、日本の所見・	状・況予	0		2条)。そうした目的を踏まえ、科学成果を国民に還元し、併せ て国民から意見を聴取することにより、社会に対して科学がよ							
● 単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。		_	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	り効果的な役割を果たせるよう、学術フォーラムを積極的に開催する必要がある。							
の 単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。		0	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。								
● 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。  ● 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。  ● 他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。  ● 他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。  ● 適切な成果目標を立て、その達成度は落実に向上しているか。  「活動実績は見込みに見合ったものであるか。  「活動実績は見込みに見合ったものであるか。  「活動実績は見込みに見合ったものであるか。  「活動実績は見込みに見合ったものであるか。  「類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。  ― ※類似事業とその所管部局・府名名  ― ※類似事業とその所管部局・府名名  「原体された施設や成果物は十分に活用されているか。  日本学術会議は、教が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上第2を記し、「中心の活しまれた。」  日本学術会議は、「東日本大震災を検験し、科学の自身から変更ととにより、社会には、「東日本大震災を検測して、日本学的会議と対域、関係分野別委員会にフィードハックすることとして、対し、学的な考え方を開始し浸透させることに、一般の活用に対している。  日本学術会議は、「東日本大震災からの復興に向けて」、「東日本大震災を教訓とした巨大災害軽減と持続的社会実現への違しまけられ等ととは、リ、社会に対し、「場合と対し、「場合と対し、「場合と対し、「場合と対し、関係」、「と命科学の進展に得う新たなリスクと科学者の役割」ほから件の学様フォーラムを開催し、計がも対と社会の新しい関係」、「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」ほから件の学様フォーラムを開催し、計がするリスクにの新しい関係」、「生命科学の進度」には、「東日本大震災を経験し、利学の役割の別といると話話性を集め、国目学術的な考え方を開催し、計算は、利学の代表機関として最大治の経験の対した。「第4年学科会議的法別、対しる科学・生命の新しい関係」、「生命科学の進度に伴う新たなリスクと科学者の役割」においては、科学・技術のと話話性を集め、国目学術的な考え方を機関として最先治の継続的な取組に結びつけることができた。 「食の方の性】」 東日本大震災を経験し、科学の役割が問われている中で、科学の普及や国民との対話に関する学員会を関上に伝えるというような方面のでは、学れて一手の性別を表して、学れて一手の性別を表して、学れて一手の性別を対していると考える。今後は、国民の関心の高い事項について学術会議の活動に関する学員会を記して変われな考える。をは、国に学の音及では、ディアーラムを開催するときる。 「東の方面性】」 東日本大震災を経験し、科学の役割が向れている中で、科学の音及や国民というような方面がしまった。「また」の表し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れているの表し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている場合し、学れている。  「本述を記しまれている。と思いないる。 「本述をいるの表し、学れている。といる。「本述をいるの表し、学れているの表し、学れている。「本述をいるの表し、学れている。「本述をいるの表し、学れている。「本述をいるの表し、学れている。「本述をいるの表し、学れている。「本述をいるの表し、学れている。「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をいるの表し、「本述をい	の	0	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。								
● 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。  ● 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。  ● 他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。  ● 他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。  ● 適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。  「活動実績は見込みに見合ったものであるか。  「活動実績は見込みに見合ったものであるか。  「活動実績に見込みに見合ったものであるか。  「活動実績に見込みに見合ったものであるか。  「類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。  ― ※類似事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。  ― ※類似事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。  ― ※類似事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。  ― ※類似事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割が担となっているか。  ― ※類似事業があるか。その場合、他部局・他府省等と通切な役割が担となっているか。  ― ※類似事業があるか。その場合、他部局・他府省等と通切な役割分担となっている。 ― ※類似事業があるか。その場合、他部局・他府省等と通りな役割が良たいる。日本学術を書はおける報告ともこによったルーページにアクロード・ルクオラムで語の、見をともに、中ルーページにアクロード・ルクオラムでは、フスユミ等に取しげられるなど話題を注これ、日本質の人と表ともに、ホームページに対して科学がより効果的な役割を果たして、科学の内と満と書いまして、日本学の会議におり、行政、産業及び国民生活に科学させるとも自的としている。(日本学術を接近を表した)、中の方の活動実験の接続に対して利力を必要してペード・ルクオラムとはにより、社会に対して利力を必要してペード・ルクオーラムと財産する必要がある。  「活動実績の接接して利力に対しる役割と果たせるよう、学術フォーラムを積極的に開催する必要がある。 「活動実績の接続して利力に関係」」「生命科学の進展に伴う動たなリスクと科学者の役割」はあいては、科学・技術の事業が対しる場合といるようというようなが、科学者の代表機関として最近地の維持的な取組に結びつけることができた。 「今後の方向性】 東日ないまが、日本学術を議によいてこの問題に関する委員会を関として、会が他の単れがよりないまが、日本学術を議によいてこの問題に関する委員会を関して、人できたい、カース・カースト・カースト・カースト・カースト・カースト・カースト・カースト・カ	更加し	_	受益者との負担関係は妥当であるか。	について関係法令に基づき各個人に適切に支給してい							
● 数目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		0	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。								
○ 他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	• п	0	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。								
□ 適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。		0	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	このため、従来からの目標に加え、新たに国民の満足度を図る指標として、24年度からはフォーラム参加者に対するアン							
たところである。		0	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。								
原収の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担と なっているか。 ない、マスコ等に取上げられるなど話題性をよった。 なっているか。	実	0	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	たところである。 活動実績については見込みどおりの開催回数となっており、 適切であるといえる。							
# 「	果	_		開催された学術フォーラムや学術フォーラムで扱ったテーマ の多くは、マスコミ等に取上げられるなど話題性を集め、国民 に対し、学術的な考え方を周知・浸透させることに寄与してい る。							
□ 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 □ 日本学術会議は、我が国の科学者の内外に対する代表機関として、科学の向上発達を切り、行政、産業及び国民生活に科学させることを目的としている(日本学術会議法第2条)。そうした目的を踏まえ、科学成果を国民に還元し、併せて国民から意見をとにより、社会に対して科学がより効果的な役割を果たせるよう、学術フォーラムを積極的に開催する必要がある。 □ 活動実績の検証】 □ 平成23年度は、「東日本大震災からの復興に向けて」、「東日本大震災を教訓とした巨大災害軽減と持続的社会実現への道」、おける科学と社会の新しい関係」、「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」ほか6件の学術フォーラムを開催し、計した。 また、開催された学術フォーラムや学術フォーラムで扱ったテーマの多くは、マスコミ等に取上げられるなど話題性を集め、国民学があな考え方を周知・浸透させることに寄与している。 申に、8月29日に開催した学術フォーラム「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」においては、科学・技術の軍事対するリスクリンロ・アシンボジウムで活発な議論が交わされた結果、日本学術会議においてこの問題に関する委員会を立ち上に今後の方向性】 東日本大震災を経験し、科学の役割が問われている中で、科学の音とや国民との対話に資する学術フォーラムを開催すること意義の高いものであると考える。今後は、国民の関心の高い事項について学術会議の成果をわかりやすく伝えることを念頭とし、定を行うとともに、学術フォーラムにおける講論の成果を学術会議の活動に反映させ、更にその結果を国民に伝えるというような方向のやり取りがなされるよう、配慮していきたい。 ■ 引き続き事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に留意すべき。なお、事業目的に対する適切な成果目標を設定に表えらいうような方向のやり取りがなされるよう、配慮していきたい。 ■ 引き続き事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に留意すべき。なお、事業目的に対する適切な成果目標を設定は、事は必要なが表し、事は書きないでは、単位の表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、事は、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、		_	※類似事業名とその所管部局・府省名	成果物の活用については、24年度から、学術フォーラムの総果をホームページにアップロードし、随時国民のアクセスを可能とするとともに、ホームページ上で受け付けた意見・要望を関係分野別委員会にフィードバックすることとしており、広報活							
させることを目的としている(日本学術会議法第2条)。そうした目的を踏まえ、科学成果を国民に還元し、併せて国民から意見をとにより、社会に対して科学がより効果的な役割を果たせるよう、学術フォーラムを積極的に開催する必要がある。  [活動実績の検証] 平成23年度は、「東日本大震災からの復興に向けて」、「東日本大震災を教訓とした巨大災害軽減と持続的社会実現への道」、おける科学と社会の新しい関係」、「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」ほか6件の学術フォーラムを開催し、計した。 また、開催された学術フォーラムや学術フォーラムで扱ったテーマの多くは、マスコミ等に取上げられるなど話題性を集め、国民学術的な考え方を周知・浸透させることに寄与している。特に、8月29日に開催した学術フォーラム「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」においては、科学・技術の軍事対するリスクについてシンボジウムで活発な議論が交わされた結果、日本学術会議においてこの問題に関する委員会を立ち上にリ、科学者の代表機関として最先端の継続的な取組に結びつけることができた。  【今後の方向性】 東日本大震災を経験し、科学の役割が問われている中で、科学の普及や国民との対話に資する学術フォーラムを開催すること意義の高いものであると考える。今後は、国民の関心の高い事項について学術会議の成果をわかりやすく伝えるととを意識とし、定を行うとともに、学術フォータムにおける議論の成果を学術会議の活動に反映させ、更にその結果を国民に伝えるというような方向のやり取りがなされるよう、配慮していきたい。  予算監視・効率化チームの所見  引き続き事業の適切な進捗管理、予算の効率的執行に留意すべき。なお、事業目的に対する適切な成果目標を設定し、表記のより取りがなされるよう、配慮していきたい。  予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)  執行 等 の効率的執行の観点から、前年に引き続きフォーラム開催会場等の見直しを行い効率的執行を図る。  本語の事実監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		0	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	動と学術会議における審議へのフィードバックを通じて、成果							
一	点検結果	おし 学 対り 【 意定ではなる。ために、の学 の本語を	平成23年度は、「東日本大震災からの復興に向けて」、「東日本大震災を教訓とした巨大災害軽減と持続的社会実現への道」、「21世紀における科学と社会の新しい関係」、「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」ほか6件の学術フォーラムを開催し、計10回開催した。また、開催された学術フォーラムや学術フォーラムで扱ったテーマの多くは、マスコミ等に取上げられるなど話題性を集め、国民に対し、学術的な考え方を周知・浸透させることに寄与している。 特に、8月29日に開催した学術フォーラム「生命科学の進展に伴う新たなリスクと科学者の役割」においては、科学・技術の軍事的利用に対するリスクについてシンポジウムで活発な議論が交わされた結果、日本学術会議においてこの問題に関する委員会を立ち上げることとなり、科学者の代表機関として最先端の継続的な取組に結びつけることができた。  【今後の方向性】  東日本大震災を経験し、科学の役割が問われている中で、科学の普及や国民との対話に資する学術フォーラムを開催することは非常に意義の高いものであると考える。今後は、国民の関心の高い事項について学術会議の成果をわかりやすく伝えることを念頭としたテーマ選定を行うとともに、学術フォーラムにおける議論の成果を学術会議の活動に反映させ、更にその結果を国民に伝えるというような、国民と双								
改 果の把握に努めるべき。			予算監視・効率化チームの所見	<u>!</u>							
執 行 等 予算の効率的執行の観点から、前年に引き続きフォーラム開催会場等の見直しを行い効率的執行を図る。 改善善	改 果の把握に努めるべき。										
行 等 予算の効率的執行の観点から、前年に引き続きフォーラム開催会場等の見直しを行い効率的執行を図る。 改善善善善善善善		LL .	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)								
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)	行 行 等 予算の効率的執行の観点から、前年に引き続きフォーラム開催会場等の見直しを行い効率的執行を図る。										
	補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)										
関連する過去のレビューシートの事業番号			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	**E							

平成22年行政事業レビュー

0159

平成23年行政事業レビュー

0166

日本学術会議事務局企画課、 参事官(審議第2担当) 2.5百万円 学術の成果を国民に還元する ための公開講演会の開催に必 要な経費等 国立国会図書館支部図書館の資料購 A. 民間企業等(6社) 【随意契約(少額)】 1.8百万円 入経費 B. 会員·連携会員等(85人) 0.7百万円 ▼【旅費·手当:直接】 会員・連携会員等の旅費・手当等 資金の流れ (資金の受け取 り先が何を行っ ているかについ て補足する) (単位:百万円) (注) 計数は原則四捨五入によっているため、資金の流れ別紙の合計とは合致しないものがある。

						1		
		T			<u></u>	A 65		
	費目	使 途	金額(百万円)	費目	使 途	金額(百万円)		
	計		0	計		0		
	費目	使 途	金額(百万円)	費目	使 途	金額(百万円)		
	<u></u> д и	K &	(百万円)	<u>я</u> н	K 25	(百万円)		
<b>費目・使途</b> (「資金の流れ」								
においてブロッ								
クごとに最大の								
(「貴金の流れ」 においてブロッ クごとに最大の 金額が支出され ている者につい で記載する。費 目と使途の双方 で実情が分かる ように記載)								
て記載する。費用と使済の双方								
で実情が分かる								
ように記載)	計		0	計		0		
	п		0	HI U				
		Т	<b>人</b> 姑			<b>夕</b> 姑		
	費目	使 途	金額(百万円)	費目	使 途	金額(百万円)		
	計		0	計		0		
	費目	使 途	金額(百万円)	費目	使 途	金額(百万円)		
			\ H \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \			\ H / J   J /		
	計		0	計		0		

## 支出先上位10者リスト

Α.					
	支 出 先	業務概要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ぎょうせい	現行日本法規購入	0.8	随意契約	-
2	(株)OCS	FOREIGN AFFAIRS等購入	0.4	随意契約	-
3	(株)文研堂書店	定期刊行物購入	0.4	随意契約	_
4	第一法規(株)	国家公務員六法等購入	0.1	随意契約	_
5	(財)日本学術協力財団	学術の動向購入	0.0	随意契約	_
6	(株)日経ナショナルジオ グラフィック	ナショナルジオグラフィック日本版購入	0.0	随意契約	_

B.					
	支 出 先	業務概要	支 出 額(百万円)	入札者数	落札率
1	会員A	地区会議出席旅費・手当	0.0	1	-
2	会員B	u u	0.0	-	-
3	会員C	"	0.0	-	-
4	会員D	u u	0.0	-	-
5	会員E	u u	0.0	-	-
6	会員F	u u	0.0	-	-
7	会員G	u u	0.0	-	-
8	会員H	"	0.0	-	-
9	会員I	"	0.0	-	-
10	会員J	II .	0.0	1	-